

2019 **7.27** (土)

19:00開演 (18:15開場)

ザ・シンフォニーホール

全席指定 ¥2,160 (税込)



オールバッハ名曲選!!

2019 真夏の オールガン コンサート

Program

J.S. バッハ

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV663

われを憐れみたまえ、おお主なる神よ BWV721

フーガ ト短調「小フーガ」 BWV578

おお愛する魂よ、汝を飾れ BWV654

最愛のイエス、われらここ集いて BWV731

トッカータとフーガ ニ短調「ドリア調」 BWV538

※休憩なし。約60分間のコンサートです。

バッハ国際
コンクール優勝

富田一樹

2つのトッカータとフーガ

主催:ザ・シンフォニーホール

発売日:2019.1/27(日) 10:00~ [Sinfonia会員先行:1/24(木) 10:00~]

【ご予約・お問い合わせ】

ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333 [10:00~18:00火曜定休]
<http://www.symphonycenter.jp>

【プレイガイド】

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:136-399] e+(イープラス) <http://eplus.jp/symphonycenter> (パソコン・携帯)
ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード:52788] 0570-000-407 (オペレーター対応10:00~20:00)
*未就学児のご入場は御遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

オールバッハ名曲選!!

真夏のオルガンコンサート 2019

「真夏のオルガンコンサート」が2019年も開催となります。J.S.バッハの命日に近い7月の時期にバッハが遺した美しい名曲の数々をお届けして今回で4回目を数えます。オルガニストに迎えるのは2016年7月、ドイツ・ライブツィヒで開かれた第20回バッハ国際コンクール、オルガン部門で日本人初の優勝を飾った富田一樹。「2つのトッカータとフーガ」と題し、誰もが知る名作「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565」ともう一つのトッカータとフーガと言われるBWV538、そしてオルガン曲の代名詞「小フーガ」など、人々を魅了し続けるオールバッハプログラムをお届けします。

Message



オール・バッハ・プログラムでお届けする「真夏のオルガンコンサート2019」。今年も富田一樹が演奏する事になりました。嬉しい気持ちでいっぱいです。今回の一押しは、稲妻のようなパッセージが印象的な「トッカータとフーガニ短調BWV565」。バッハの作品の中で最も有名なオルガン曲ですが、実は作品番号の違うもう一つの「トッカータとフーガニ短調BWV538」が存在します。バッハの情熱が爆発したこの2つの作品はどちらもドラマティックで、真の名曲である事は間違いありません。また「最愛のイエスよ、我らここに集いてBWV731」をはじめとする4つのコーラルはどれも美しい旋律を持ち、私達に深い慰めと希望を与えてくれる事でしょう。クラシックファンの方にも人気が高い「小フーガニ短調BWV578」も演奏します。ザ・シンフォニーホールのパイプオルガンが奏でる壮大なバッハの世界。どうぞご期待ください。

富田一樹

富田一樹 [パイプオルガン] Kazuki Tomita

大阪音楽大学オルガン専攻を最優秀賞を得て首席で卒業。同大学音楽専攻科オルガン専攻修了。ドイツ・リュエック音楽大学大学院オルガン科修士課程を最高得点で修了。オルガンを土橋薫、アルフィート・ガストに師事。古楽をハンス・ユルゲン・シュノールに師事。ライブツィヒ第20回バッハ国際コンクールのオルガン部門にて日本人初となる第一位と聴衆賞を受賞。平成29年度「咲くやこの花賞(音楽部門)」(2017年12月)、「音楽クリティック賞(奨励賞)」(2018年1月)を受賞。ドキュメンタリー番組「情熱大陸」に出演。(一社)日本オルガニスト協会会員。

<http://kazukitomitaorg213.wixsite.com/home>

幻想的な世界が広がる ザ・シンフォニーホールのパイプオルガン

ザ・シンフォニーホールの舞台正面に厳かに佇むパイプオルガンは「本格的なコンサートホールには、ヨーロッパの伝統的なパイプオルガンが欠かせない」という強い想いのもと、スイスの名門オルガンビルダー「クーン社」によって生み出されました。透明感のある明瞭な音の特徴で、3,732本のパイプから成り、3段の手鍵盤と低いパイプを鳴らす足鍵盤、音色を調整する54のストップがあります。オルガニストの感性、音楽解釈によって、様々な音色が組み合わさっていきます。残響2秒というクラシック音楽にとって最適といわれるザ・シンフォニーホールの豊かな響きの中に広がるパイプオルガンの音色は、まるで巨大な楽器の中にいるかのような壮大で幻想的な世界へ誘ってくれます。

